

美濃市 北部地域

令和4年度

【地域の概要】

- 美濃市は、岐阜県のほぼ中央に位置し、長良川の中流域にある典型的な中山間地域で、南部地域は比較的平坦部があるものの、北部地域は中山間となっている。
- 南部地域では、一定数の就農者が見られ、稲作・野菜類・柿などが栽培されているが、北部地域では、不整形で狭小圃場が点在しており、集積を目指すものの、実現するに容易でなく、耕作も十分と言えない。

①取組開始前の状況や課題

- 農家の後継者が農業以外に就労しており、現役引退した世代（60歳代～70歳代）が農業の主力となってきている。
- ただ、元気な高齢者が多いことから現時点では農地の管理は適正に行われている。
- 一方で、中山間共通の課題として鳥獣被害対策が挙げられる。美濃市においても例外ではなく、サル、イノシシ、シカ等の被害報告が少なからず聞かれ、特に北部地方においては、その対策に追われている。

②取組内容

遊休農地発生防止のためニンニクの試験栽培（令和3年8月～令和4年6月）

- 農業委員1名、推進委員2名で取り組みを検討し、当地域の気象・土壌条件に合い、鳥獣被害が避けられ、一定の収益が見込め、かつ高齢者でも栽培が可能なニンニクに着目。
 - 美濃市でのニンニク栽培は、経験が乏しく、情報も少ないことから、まずは手始めとして農業委員・推進委員3名が遊休農地を活用して試験栽培し、どれくらいの手間がかかり、どの程度鳥獣被害にあうのか、さらに収益状況などを調査した。
 - 試験圃場3カ所：大矢田3a 曾代3.8a 立花2.5a
- 試験栽培結果（委員3名がレポートにまとめ関係者で情報共有）**
- 試験圃場によって、収穫量に差異があったが（約23kg～90kg）、一定数の収穫・収益は得られ、鳥獣による被害もほとんど見られなかった。一部で猿が侵入し、葉っぱをちぎることはあったが、収穫量に影響はなかった。
 - 植え付けと収穫には手間がかかるが、それ以外には手間がかからないことも分かった。

③今後の展開と方向性

- 鳥獣の被害にあいにくい作物であること、収穫時に応援があれば一人でも耕作が可能であることを踏まえ、試験栽培により得たノウハウを農業委員や推進委員から広め、遊休農地にならない地域づくりをしていきたい。
- 美濃市産ニンニクのブランドを確立し、高齢者の収益力向上を目指していく。
- 美濃市の道の駅を運営する株式会社美濃にわか茶屋が黒ニンニクをこの地域の特産品とする活動をしているため、今後も品質の向上を目指し、研究を続けていきたい。

「遊休農地発生防止のためのニンニク試験栽培」

